病床に見る世相（一）

市川　浩

二月十六日の夜、自宅にて高所の戸棚に物を取らむとして、足場に用ゐたる椅子諸共仆れ、大腿骨を折る。幸ひ人工骨頭取附の手術成功し、翌日よりリハビリも始め、三月十九日には退院して自宅へ歸り、順調の恢復と見えたり。されど眞の問題は手術により低下せる筋力の恢復にして、リハビリによる各種動作機能の恢復も、筋肉力の範圍内にてこそ效果を擧ぐれ。しかしてその恢復速度緩慢にして約半年を覺悟す。然ればきのふ善く出來たる動作も今日は何となくぎこちなく、筋力の限界を實感すること多し。リハビリの先生無理を固く戒めて、動作練習寡きをな焦りそと諭し給ふ。

かくて長期戰に入りければ、從前目にするなかりき午後のテレビとも相對す。退院の頃は、森友、加計學園に關聯せる財務省資料の隱蔽竝びに改竄問題の最中にて、本件に就き既に六ヶ月前の本欄にて論評の記憶あり、かくも長期に亙り、捗々しき進展もなき延々たる國會集中審議に、安倍政權の批判に連日賑はゝしきテレビは、北朝鮮、イスラエル、シリアなど世界情勢への對應は如何にとなるや、專ら同政權の方針を忠實に傳ふるのみ。

次は日大アメリカンフットボール部の惡質タックル問題にして、「潰してこよ」との指令を受け、既にその場より離れたる相手のＱＢ（クオータバック）の背後を衝かむと追ひかくる場面の放映は我が國テレビ史上最大の延べ回數に及ぶべし。實行の選手自ら會見を開き、監督の指示は絶對と陳べて、批判は監督に集中し、退任は固より、同大學に於ける他の役職の解任、所屬連盟からは除名と完膚無きまでの「潰し」を受く。顧みるに大相撲にては横綱が後輩力士を毆打し、レスリングにては選手の練習場所を妨害しと、最近スポーツ界の不祥事絶えず。指導者には勝つのみを求め、そのための全權力に、選手には無條件の絶對服從を求む。是我が國本來の師弟關係にあらずして、歐米流指導理念の表面的理解に過ぎず。曾ての我が國國軍を指導せる軍人敕諭が忠節、禮儀、武勇、信義、質素を兵士に求めたるに對し、昭和の戰陣訓死して虜囚の辱を受けざるを求めたると同質の文化の質的劣化を見ざるを得ず。曾て我がスポーツ選手フェアプレイに徹して世界の賞贊を受け、觀客また相手の美技に拍手す。今日選手の語る抱負は「金メダル」を頻りに口にし、觀客は「ニッポン、ニッポン」を連呼するのみにては、折角試合終了後の後片附けなど、世界に誇る觀戰禮儀も色褪せむ。

一方サッカーワールドカップ日本代表の西野朗監督は、大會二ヶ月前の就任にも拘らず、緒戰に強豪コロンビア（以下Ｃ）を撃破し、第三戰ポーランド（以下Ｐ）との敗戰濃厚の終盤戰に於て、敢て攻撃斷念の奇策に出で、決勝トーナメント進出を果せり。是に對し大方の評價は賢明の處置とし、フェアプレイの面よりの非難は意外に寡し。われは別の感懷を以下に陳べむ。

先づ西野監督の決斷時刻、後半終了前約十分を考察するに、日本（以下Ｊ）０對１Ｐ、是と同時進行のセネガル（以下Ｓ）０對１Ｃにて、ＪとＳとは反則に對する警告差のみにて後者に優位ありとす。Ｓとしては、Ｊが得點を拋棄せる上は、１點の獲得は卽ち決勝トーナメントへの進出とて、Ｃゴールへの殺到あるべし。若し得點となりせば西野戰法は崩壞し、世の批難を受けまし。かゝる危險を承知の上、敢て實行に踏切れる根據は、恐らくＳ―Ｃ試合會場に派遣せられたる監督腹心の試合觀察專門家ありて、當日の試合の流れ、潮目を具さに觀察し、Ｓに得點機無しとの判斷情報を送りたるらむ。かくて「打ち方止め」はブーイングの中にも目的を達成す。「潰してこよ」との差なるべし。

（平成三十年七月十一日受附）